

		その他ご意見
1	反対	事務局案は現状の人数を基準とした設計であり、意見書を寄せられた方々には明るくとらえた人口増をイメージする発想があり、正にどのような育でたいかが魅力につながると思っていますので、時期尚早ではないかと思えます。現状では人口減が顕著に思えますので、その対策を講ずべきだと思います。
2	賛成	沢山の意見を集め委員全体で協議を経た結果なので問題ないと思います。 場所の議論になると、なかなかまとまりにくくなる。もちろんあたり前のことで、当然であると思います。その中で、本会の答え、考えは1本にはならないと感じました。その中での骨子2建設地の選定の内容については、まさしくその通りかと思っています。私の考えも同様です。
3	賛成	小中一貫で意見をあげた方も、義務教育学校のメリットを感じ、いずれ義務教育学校にしようという考えのようなので、委員会のほとんどの方が義務教育学校がのぞましいと感じていると思います。 建設場所は、委員会で一ヶ所に絞るのは難しいので、それぞれのメリットデメリットを委員会の意見としてまとめ、最終的に多角的に検討という意見に賛成です。
4	賛成	②教育環境として、2つの候補地に選ばれたが、どこで建設されても子供にとって素晴らしい教育場になるだろうと思われる。村議会、村長が決めていただき、決定してもらいたい。（スピード感を大切に）
5	①賛成 ②反対	1、①義務教育学校で良いと思う（自分達で考え実行できるように）2、②南小が多い。その他の中にも南中はどうか？とあるのであれば南小で建てるという意見で良いのではないか。
6	賛成	少子化、学校建物の老朽化などを考えて新しい学校は必要だと思う。小中一貫教育制度についても今後のことを考えればいいように思う。
7	賛成	新しい学校を建設して、子どもたちのために、みんなが同じ方向を向いてよい学校ができたらいいなと思います。
8	骨子① 賛成 骨子② 反対	骨子②についてはもう少し少ない文言にしてくださいだと思います。その他のが多いため、多角的にだけでは無理があるように思えます。
9	賛成	1、義務教育学校で意見集約できると思えます。2、建設地の選定について 建設委員会では、建設候補地を1つに絞り込むことはできませんでした。よって建設地をどこにするかの決定は村にお任せします。決定したあかつきには、全面的に協力させていただきます。
10	賛成	1、多数決でまいったので 2、この委員会としては決められるのはこの辺までと理解するので。
11	賛成	村議会の判断に委ねます。
12	賛成	義務教育学校が望ましいと思います。けど建設地の選定については、甲乙つけがたいです。
13	賛成	①賛成 ただし②建設地の選定について村全体として多角的に検討してもらい次回の委員会で決めたいです。
14	反対	別紙
15	賛成	建設地について優劣をつけがたいということとその他の数字が多く、今後の選定が難しいかとは思いますが今までの意見についても添付するということなので、そこを丁寧に見ていただくことで委員全体の意見を見てもらって決定していいと思います。
16	賛成	・義務教育学校がのぞましいと思う・建設地に関しては、第3の候補地を出したとしても時間がかかってしまうと思う。選定については、今まで多角的に検討しても決めがたい問題なので、委員会としては決定できないと思う。あとはお任せして最善な場所に建設をお願いします。
17	賛成	義務教育学校を新設することに賛成です。建設地に関しては安全性（災害リスクの低さ）を最重視して是非選定して頂きたいと思っています。建設地が決定した後が、とても重要だと感じています。
18	賛成	候補地の優劣という表現が望ましくないのではないかという意見が出されました。そのとおりだと思います。その表現は検討していただきたい。どちらに決まっても、協力して気持ちをひとつにして進めていきたいという思いはみな持っていると思います。
19	賛成	
20	賛成	事務局案に賛成です。
21	賛成	④賛成 建設地について反対意見があるかもしれませんが今までの討議をみていて2つの候補地は村として総合的に判断していいだと思います。
22		
23		
24	①は賛 成	①建物を造りたばなしにしない。村が継続的に永続的に学校作りに関わっていく覚悟を持ってもらいたい。村の未来についても本当に真剣に向き合って下さい。②当初から心配していた。結局行政の都合に学校が利用されてしまう。
25	賛成	1. 賛成 特段義務教育学校の対する反対意見は無さそうなので。2. 賛成 どの場所になったとしても全員が賛成することはありえないので、村として一番良い場所を決めて頂くしかないと思うので。
26	賛成	事務局の方々、ここまで資料の用意、会議のすめ方の工夫ありがとうございました。建設地の選定について「専門家や専門機関を交え」の一文を追加いただきたい。「メリット、デメリット」を洗い出したところでのその解決方法を見い出し、より未来を見据えた意見を取り入れられてもらいたい。（教育面は先生など）「決め方」は署名や意見を広げすぎると感情の意思が出て、争う様になることが不安、各委員が前向きにより意見を言えるところの会も良くなると思うのでご配慮いただきたい。
27	賛成	小中一貫との2択なら義務教育学校です。
28	賛成	収まるところに収まった・・・という印象です。ただし少し残念だったのは、最初から村としての方向性を大まかに示してから会議を始めてほしかったです。せっかくの夢のある建設なのに、選択肢が多すぎてネガティブな意見が周りで煮詰まっていたしんどかったです。皆さん真剣に考えて故の熱量だったと思うので、それを生かしきれず残念でした。
29	賛成	今まで話し合ってきた意味、意見が含められていると思う。（多角的ではあっていいが、安全面をハザードマップのみならず1番に考えてもらえろといひ。）
30	賛成	
31	賛成	①賛成 提出済みの意見書のとおりです。

委員のお一人からいただいた反対意見と再投票実施の提案です。

【反対】私は、今回の進め方に対して強く反対の意を表します。

1. 「振り返りカード」の扱いについて

前回提出した「振り返りカード」は、本来「建設場所に対する自由意見」を収集するものであったはずですが、しかしながら、その趣旨や背景への説明もないまま「投票結果」として扱われたことに、大きな疑問と不信感を抱きました。

また、曖昧な表現の意見を一方的に「その他」と分類し、その結果を根拠に「判断が難しいため議会と村長に委ねる」という結論に至った手法は、極めて操作的に見えてしまいます。私たち委員がこれまで費やしてきた時間や労力が軽視されたように感じ、深い落胆とともに、強い消化不良を覚えました。

2. 責任を押しつけない形での再投票を求めます

「責任が怖いから決められない」「自分の立場では判断しづらい」といった委員の声もあったと伺っています。そうした背景にも配慮しつつ、各自の率直な思いが可視化される投票設計が必要だと考えます。

具体的には、以下のような多様な選択肢を設けた無記名での「正式な再投票」を強く求めます：

南中

南小

どちらでもよい

決められない

回答したくない

その他（ ）

このような投票であれば、責任を押しつけることなく、現在の委員の意識が数値として可視化できるはずです。

3. 意見共有と少数意見の扱いについて

これまで私は繰り返し、「透明性」および「住民参加の実質化」の重要性を訴えてきました。たとえば以下のような提案も行っていました：

村民全体への簡易アンケートの実施、意見募集

委員のお一人からいただいた反対意見と再投票実施の提案です。

保護者・教員・こどもからの意見聴取（アンケート等）
委員内の最終投票と、少数意見の添付による村長提出

これらに対し、「対立を避けたい」として全体共有や議論がなされなかったと伺いましたが、対立を避けるために意見を出さないという姿勢は、むしろ委員の視野と議論を狭めるものです。

「対立＝悪」ではありません。意見の違いを丁寧にすり合わせていくことこそ、民主的なプロセスの本質であり、「ディベートを行い最終的に自分の意見を持つ」といった実践は今や小学生の学びにも組み込まれていることです。

4. 住民参加のあり方と制度運用の矛盾

一般住民からの発言についても、「教育委員会としては回答・共有・反映しない」という前提で行われましたが、これは「住民の声を大切にする」という大義と大きな矛盾があります。

「委員が持ち帰るだけでよい」という運用では、どれだけ真剣に時間をかけて意見を述べても、住民の納得感にはつながりません。
都合の良い意見だけを拾い、そうでない意見は無視されたと感じさせてしまっては、不安と不信を生むだけです。

「子育て日本一の村」を掲げながら、現場の声が置き去りにされる今の状況には、深い失望と矛盾を感じざるを得ません。

5. 決定の正当性と委員構成の偏り

会議中には「もう疲れた」「任せよう」という空気も見受けられました。実際、「本当は反対だがもういい」と消極的に賛成に回った方もおられました。
また、この委員会は公募ではなく教育委員会が選出したメンバーで構成されており、関心の薄い方や一度も出席していない方もいる中で、もし今回「反対意見が少ないので前回提示した通りとなります」と結論付けてしまえば、それは果たして村民の総意と言えるのか、大きな疑問が残ります。

このような経緯を経て「みんなで決めた」とすることには、強く異議を唱えます。

6. この委員会の意義

委員のお一人からいただいた反対意見と再投票実施の提案です。

本来最優先であるべきは、「子どもたちにとって何が最良の教育環境か」を丁寧に議論することだと考えています。しかし現状では、その本質的な視点が十分に深められないまま、建設地の選定という「形式的な結論」だけが先行しているように見受けられます。

委員会が「住民の意見を取り入れる場」として設けられたのであれば、単に発言の場を設けるだけでなく、その声の整理や反映がなされることが重要です。そうでなければ、「住民の声を聞いた」という形式だけが残し、実質的な議論や住民参加が形骸化してしまいます。

委員の多くは、報酬もない中で時間を捻出し、真剣に議論に参加してきました。その努力が「結論ありきの手続き」に埋もれてしまうような進め方では、委員会を設けた意義そのものが問われることになります。

もし最終的に「村長と議会に任せる」ことが前提であったのであれば、はじめから委員会を設けず、全村民への簡易アンケートの実施で十分だったのではないのでしょうか。多様な意見を幅広く集めることこそが、未来に向けた判断において必要な視点をもたらすものだと考えています。

7. 最後に：民主的な結論のために

たとえ反対が一人であっても、その理由を共有し、議論することが重要です。「少数だから無視する」姿勢は民主主義の根幹を否定するものです。

私は、無用に議論を引き延ばしたいのではありません。
せめてもう一度、委員会として正式な投票を実施し、振り返りカードを含むこれまでの意見を整理・共有したうえで、村長への提出を行うべきだと考えます。

数値で現時点の委員の考えを明らかにし、委員全員の声をまとめとして記録・公開することこそ、「形だけでない住民参加」であり、真の民主的な意思決定です。

私は、この議論を中途半端に終わらせたくありません。
委員会として、最後まで誠実かつ丁寧に向き合い、納得できる形での結論を導くことを、強く求めます。

どうぞよろしくお願いいたします。